

現代戦における軍事的要請であり、民主主義国間の同盟を持续させる政治的要請でもあるからだ。今般の安保法制は、遅まきながら日本もこの現実に合わせるということである。

国際政治を専門とする身として、法案の中身がおかしいとは思わない。安全保障が一国で完結しないことも、同盟国が相互に集団的自衛権を行使することも国際社会では当然視されている。それは、指揮系統の一体化を必要とする

国会で安保法制に関する議論が続いている。正直、政府の答弁にも、野党の質問にも、戦後日本の画期を論じているという緊張感を感じない。

安保法制を問う

イスラエルとヨルダン国境地域にある死海で浮かぶ観光客ら＝4月27日



3千力所、「危機



ビーチや道

海に移す計画が進み、順調なら15年で開始できる見通しだが先行きは不透明だ。シャニ氏は成功すれば水位安定につながり「成分に影響も出ない」と分析しているが、紅海の水が混ざることで成分が変わり「われわれが知る死海と同じではなくなる」（エーデルシユタイン氏）と懸念する声も出ている。（エルサレム共同）



カートを運転する課題をなす東京大チーム「JSK」のロボット＝5日、米カリフォルニア州ボーモン

三浦 瑞麗（國際政治学者）



緊張感なき方向転換

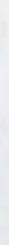
いという答弁や、世論をバランスさせる歴代政
事例を前面に、權の工夫でもあつたけれど、
には違和感がある。普通に言えば、ごまかしで
あつた。戦後初期の再軍備か
根本認識にズレらして、明らかな軍隊組織を
間での議論には難
「警察予備隊」と名付けるこ
るだろうが、国会とから始まつた。自民党が国
民への答弁でも、民政党化するに従つて、武

た。いまや、残された原則は文化の各領域を総合すること
非核三原則と、憲法9条第1項の平和主義くらいであろう
際の犠牲についても正面から語るものでなければならなか。
か。積み上げられてきた細か
みづら・るり 80年神奈川県生まれ。東大大学院修了。博士(法学)。日本学術振興会特別研究員などを経て15年から東大政策ビジョン研究センター客員研究員。専門は国際政治学。著書に「日本に絶望している人のための政治入門」など。

三浦 瑞麗(国際政治学者)

安全保障環境が厳しくなったことで、安保法制の整備が必要となつたように、同時に、安保論議の成熟も求められて いるのである。民主主義を機 能させる鍵は、正確な情報と 自由な言論が国民に伝わることである。権力者は率直に語るべきで、国民はごまかしを 許容してはならない。

120

地図
ヨル
N
10
出でいる。(エルサレム共同)

フォルニア州ボモナ

地中海
レダン
エ
イスラ
0km

レ
川西岸
ニルサレ
ラエル
エジプ
—れれれれが矢を矢を—
ではなくなる—（エーデルシ

カムトサハリビ
「われわれが知る死海と同じ
か混ざることで成分が交わり
カートを運転する課題をこ

ニナ
ヨルク
●アン
死
ヨルタ
ウジア

と分析しているが、紅海の水
と混ざることで成分が変つて
量も多くの誤題を経てクリー
ル。

し、各国から24チードルが参加。最も多くの課題を発表するアフリ

計画局(DARPA)が主催
氏は成功すれば水位安定につ
チ

「ス・ミドルイレブト」のミラ・エリデルシュタイン氏は、この道をめぐる危機に直面する。彼女は、この5年で開始できる見通しだけで、題に転倒が相次ぎ苦戦した。——え